

中日新聞広告特集
震災から4年半

今年も福島へ行ってきました

4年目となる仮設住宅の子どもたちへの学習支援。
「また来てね」「また来るね」の約束を
学生ボランティア達は今年も果たしました。
友情さえ芽生え始めた、
4度目の夏の学習支援レポートです。

東日本大震災から4年半。
震災後途絶えていた線路や道路もつながり、
被災地では街の活気も戻りつつあるように思えます。

それでも、仮設住宅で生活する人はまだ約7万人。

中日新聞が福島のNPO法人
「ビーンズふくしま」の協力を得て、
仮設住宅の子どもたちに夏休みの
勉強を教える「学習支援ボランティア」も、
今回で4回目となりました。

活動を始めた当初、小学校高学年だった子は
中学生や高校生になり、
部活などに励みながらこの先の進路を
一人一人考え始めています。
時の流れとともに仮設住宅で暮らす子供たちも
成長しています。



被災地での活動を継続して行く意味や大切さを、
参加するボランティアの学生達は感じています。
また会えた子どもたちの笑顔。
再会を嬉しく思う一方、仮設住宅で精神的にも
不自由を強いられている現実が続いていることを、
私たちは知り、向き合い、考えていかなければなりません。
だからこそこの継続。

三菱重工株式会社(以下、三菱重工)の協力のもと
昨年開始した「理科授業」は、
被災地の子どもたちにも大きな夢や希望を
たくさん抱いてほしいという願いが込められています。

出会った笑顔にこたえていけるように。
忘れないように。
私たちは寄り添い続けます。
これからも思いを東北に。



2015 福島学習支援 参加学生の声



実践女子大学 生活科学部
小柳利恵さん 食生活科学科4年
今年も企画に参加させてもらい、子供たちの
成長や復興の歩みを実感しました。子供たち
が私の顔を覚えてくれ、「また来てね」と言っ
てくれたことに継続して支援する大切さを感じ
ています。今後も支援を続けていきたいです。



実践女子大学 生活科学部
大畑奈未さん 食生活科学科4年
福島を訪れるたび仮設の子供たちの成長を感
じました。企業主催の理科実験教室、絆づ
り交流会では子供たちの笑い声が絶えなかつ
た。あの震災から4年がたった今、確実に前
に向かう福島の姿勢を肌で感じることができ
ました。



女子栄養大学 栄養学部
葉室日奈子さん 食文化栄養学科4年
ボランティア活動に参加してまもなく3年になり
ます。参加するたび、子どもたちから沢山の
笑顔と元気をもらえるので福島に居るのがた
く楽しみになっています。活動を通して「福
島の今」を多くの方々へ発信していくのが
「福島出身者」としての自分のつめだと思
っています。これからも続けていきたいです。



富士常葉大学 社会環境学部
鈴木幹大さん 社会環境学科4年
今回で二年目のボランティア参加となりました。
仮設に到着すると、「おかえり」と声を掛けら
れたことが一番印象に残っています。私は、こ
れからも福島に関わり続け、一人でも多く
の笑顔を作っていきたいと思っています。



常葉大学 経営学部
澤本慎太郎さん 経営学科3年
学習支援に携わること2年目。子ども達に必要
とされていることに喜びを感じます。震災
から4年が経つにつれ、未だに仮設住宅生
活を余儀なくされています。被災地の子
どもたちにも大きな夢や希望を、
私たちが必要であると感じます。



常葉大学 法学部
風岡莉沙さん 法律学科2年
今回を含め3度目の福島。会うたびに成長し
ている子供たちに喜びを感じました。4年
半が経つにつれ、世の中には色々な出来
事があり、震災のことを忘れてしま
う人がいるのではないかと心配しています。
これからも子供たちと関わり続けたいと思
っています。



愛知県立芸術大学 美術学部
黒田愛美さん デザイン・工芸学科4年
福島の仮設住宅で学習支援をさせていただ
くのは3回目。その間いろいろと悩むこと
もありましたが、「また来てね」と言っ
てくれるだけで行く理由は十分でした。
また来ます。



東京大学大学院
住吉谷淳さん 機械工学専攻修士1年
本活動への参加は1年半ぶりでしたが、子供
たちの成長には本当に驚かされます。震災
から4年、被災地や復興に関する話題も
ほとんどなくなりましたが、まだまだ復
興活動は続いています。本活動を含め、何
からかの形で福島への支援、および周
辺への情報共有・発信を続けていきたい
です。

三菱重工の夏休み理科授業 ホバークラフトを作ろう!

去る7月31日、三菱重工とNPO法人「KU-MA(子ども・宇宙・未来の会)」の協力のもと、夏休みの理科授業「ホバークラフトを作ろう!」が福島県福島市南体育館で開催されました。集まったのは福島県浪江町から福島市内の笹谷、佐原、しのぶ台応急仮設住宅で避難生活を送る子どもたち約10人。モーターやプロペラを取り付けて風と空気の流れを利用して滑走する楽しさを学びました。



主催：中日新聞 協力：三菱重工/KU-MA(子ども・宇宙・未来の会)

START!

- まずは三菱重工がどんな会社なのか、CSRグループの渡辺辰徳さんから説明がありました。
- いよいよホバークラフトの工作開始です。講師でありNPO法人「KU-MA」の菅雅人先生から「ホバークラフトって何?どんなもの?」といった解説を聞きました。ホバークラフトとは水陸両用の乗り物!
- 型紙に合わせてビニールを貼りホバークラフトのスカート部分を作っていきます。そこにプラスチックケースのキャップをセロハンテープで固定します。
- モーターにプロペラをつけて、プロペラがキャップにぶつからないように取り付けます。
- 安全カバーとカギを取り付けて
- 最後に名前や絵を描いて自分だけのオリジナルホバークラフトの完成!
- 3, 2, 1のカウントダウンでみんなで一緒に動かしてみよう!

GOGO!

少し前に押し出してみると真っ直ぐに進みました。体育館の端っまで上手に進むホバークラフトもあれば曲がってしまうものもあり。走って追いかけて楽しみました。

三菱重工の理科授業に対する思い

三菱重工グループは「次世代への架け橋」をCSR行動指針の1つに掲げ、様々な次世代育成推進活動に取り組んでいます。被災地での理科授業では、子どもたちが「夢」を持ち、将来について考えるきっかけになることを願っています。被災地では、子どもたちが「夢」を持ち、将来について考えるきっかけになることを願っています。被災地では、子どもたちが「夢」を持ち、将来について考えるきっかけになることを願っています。

渡辺辰徳さん(左)と下引地剛紀さん(右)

企画・制作/中日新聞広告局

?から!が生まれる。

子どもたちにとって、世界は不思議だらけ。いろんなことに疑問をもち、いろんなことを試してみる。ものづくりの精神に通じる子どもたちのそんな好奇心を、私たちは心から応援したいと思います。子どもたちの小さな気づきを、未来につながる大きな創造へと育てていきたい。ものづくりのチカラで持続可能な未来をつくる、私たち三菱重工グループの願いです。

三菱重工
この星に、たしかな未来を

三菱重工株式会社 〒108-8215 東京都港区港南2-16-5 www.mhi.co.jp